

平成20年度第2回次世代育成支援対策地域協議会 会議録

日 時 平成21年1月28日(水) 19:00～20:30
場 所 総合福祉保健センター4階会議室
出席委員 中井会長、菅村副会長、竹中委員、皆川委員、徳田委員、加郷委員、
小川委員、末永委員、松村委員、山田委員、相澤委員、菊池委員、
莊委員、齋藤委員
欠席委員 西委員、島岡委員、高橋委員、大貫委員
事務局 福留こども課長、染谷こども課子育て総合相談室長、
齋藤こども課主幹、飯田こども課副主幹(事)こども係長、
高野こども課保育係長、米井こども課主査補、北川こども課主事
記 録 北川
資 料 別添のとおり

会 議 内 容

- 1 開 会 齋藤主幹
- 2 あいさつ 中井会長
- 3 新委員紹介 島岡委員(島岡委員欠席のため、委員変更の報告のみ)
- 4 会議録署名人の選出 松村委員、山田委員が選出された。
- 5 議 題
(会長)
では、まず配付された資料について事務局から説明願います。
(事務局)
資料に基づき、説明。
(会長)
何か質問などありますか。
(A委員)
次世代育成支援行動計画策定スケジュールのニーズ調査の概要報告は、誰に誰が報告するのでしょうか。
(事務局)
ニーズ調査は分析を市が業者に委託し、結果が出来次第、協議会委員にご報告します。
(A委員)
報告は聞くだけになるのでしょうか。
(事務局)
ご報告をした上でご意見を伺います。

(A委員)

どういう意見を聞きたいのでしょうか。

(事務局)

単純集計の部分では、ご報告のみ行うことになると思いますが、アンケート内に自由記載欄があるのでその中身についてご意見を伺うことになるかと考えています。

(B委員)

自由記載欄に書かれたことは全部見せてもらえるのでしょうか。

(事務局)

内容をカテゴリーに分けてまとめた上で報告いたします。

(C委員)

報告は、このような会議に参加しないと知ることは出来ないのでしょうか。

(事務局)

最終的にはまとめて冊子等を作成し公開します。

(A委員)

次世代育成支援のための新たな制度体系の設計に向けた基本的考え方の概要の中の文末が、考える必要や議論が必要となっていますが、誰がどこで考える予定でしょうか。

(事務局)

国は概要を示すだけであるため、実際には、行政サービスを行う自治体が咀嚼して考えることとなります。この内容を鎌ヶ谷市に当てはめて協議会の方々等と検討していく展開となります。

(B委員)

アンケートは国の方針でしょうか。

(事務局)

国が示したものでございます。

(B委員)

国はどこまで関与するのでしょうか。

(事務局)

基本のサービス関係は国の方で設定されております。その他は、市町村の状況に応じて項目を設定することができます。

(B委員)

鎌ヶ谷独自で追加している項目はないのですか。

(事務局)

鎌ヶ谷独自で追加している項目はございません。

(B委員)

今回のような大々的なアンケートは久しぶりということとのことですが、大々的に行う前に検討して欲しいと思います。質問の項目内で、知っているに「はい」と「いいえ」があるがこれではさびしく感じます。色々なサービスがある中で実際に子育て

支援サービスを受けている方の意見を聞いて欲しいと思います。また、ある一定年齢の児童の保護者の意見を聞くのも良いと思います。市の事業をアピールする姿勢をもって欲しいと思います。

(事務局)

励みになるご意見をありがとうございます。今現在子育てサービスを利用している方には、次年度の事業の展開を検討する上で、ご意見を伺っております。一定年齢的に絞ったアンケートについては、プレアンケートという形で健康増進課の3歳児健診で行っておりますので、そのようなプレアンケートを今回の育成計画にどのように反映させていくかを研究したいと考えます。また、啓発活動については、チラシ等を含めた意識付けをさせていただいているつもりではありますが、それがどう認知されているかは、今回行うランダムな調査ではっきりしてくるかと思えます。

(事務局)

2～3年前の地域協議会で出来るだけいろいろな子育て情報を市民に知らせるようにとのご意見を受けてガイドブックやホームページ等を作成して子育て情報の発信に努めて参りました。その結果はどうかを確認するため今回のアンケート内に知っているか知らないかの項目を設けました。

(A委員)

無作為抽出の際、どの年齢を対象としたかわかりますか。

(事務局)

わかります。

(A委員)

回収率ほどのくらいと考えていますか。

(事務局)

5割以上の回収率となるよう努めます。途中でお礼状を出す予定ですがその中で、まだアンケートのご回答をいただけていない場合は出してもらいたい旨、記載する予定です。

(B委員)

図書カード等のインセンティブを付けてみてはいかがでしょうか。

(事務局)

今回のアンケートでは設問が多いので回収率を心配している市町村もあるようです。

(A委員)

大変そうだと思います。回収率は半分以下となる気もしますが、期待しておきます。

(D委員)

今回の調査対象である2,500世帯との根拠は何でしょうか。この対象数で鎌ヶ谷市全体を把握することはできるのでしょうか。

(事務局)

人口比に対して目安的に定めております。統計法からこの世帯数で足りるという考え方がありますので、それに準じて行っております。

(B委員)

せっかくアンケートをするのだから市をアピールするような独自の項目を設けて欲しいと思います。

(事務局)

鎌ケ谷市の言葉で聞いている設問を入れさせてもらいました。例えばブックスタート事業や保健推進員による乳児訪問などの言葉を入れております。単独項目では入れておりませんが、小さい部分で入れているところです。

(B委員)

もったいないと思います。

(事務局)

質問項目を新たに入れるとボリュームが増してしまいますのでそこが悩むところです。

(E委員)

自由記載欄を利用すれば鎌ケ谷独自のものもできるのではないのでしょうか。

(事務局)

参考にさせていただきます。

(F委員)

子育てのことで小さなことで悩んでいる保護者がいます。このアンケートの調査結果を参考に協力していきたいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。

(C委員)

ファミリーサポートセンターの項目で利用しているか利用していないかの項目となっていますが、これは知っていることを前提とした内容ではないのでしょうか。

(事務局)

知らない人は利用していないに丸をつけます。

(F委員)

子育て支援の案内の冊子は、目立つところにおいて欲しいと思います。無い場合もあります。

(事務局)

増刷に努めてまいります。

(G委員)

情報を知りたい方は情報を求めていきます。なので、広報に経費をかける必要はないと思います。永住している外国人に対する子育て支援を行って欲しい。永住の外国人は1パーセントいますが、子育てが難しい環境にあります。鎌ケ谷市で解決できる話しではないかも知れませんが、日本人以上に配慮が必要だと思います。

(事務局)

1パーセントの方のために何ができるかを検討していきたいと思います。

(H委員)

調査票を出す前に回収率を上げる努力はするのでしょうか。回収率が良いと良いデータの取得ができると思います。

(事務局)

ご協力をお願いする広報を出す予定にあります。ただし、間に合わない可能性もあるのでそこも含めて考えていきます。

(J委員)

保健推進員をやっております。何かご協力できることがあれば行いたいと思います。

(事務局)

お願いする場合もあるかと思いますがよろしくお願いします。

(E委員)

調査時期については、異動等があると思いますが影響はないのでしょうか。

(事務局)

期間的には8月までに行えば良いと国からは指示されております。ただし、特別給付金等の話しもでておりますのでその前に行いたいと思っております。話は前後しますが、今回の調査は無作為抽出のため誰に当たるかわからないものとなっております。

(A委員)

無記名では、礼状は出せないのではないのでしょうか。

(事務局)

発送する方はわかっております。

(C委員)

郵送で行う必要があるのでしょうか。インターネットで行えば安く行えるのではないのでしょうか。

(事務局)

個別で行うため、アドレスがわかりません。

(C委員)

ホームページ上で行うとアドレスは必要ありません。

(事務局)

インターネットで行うと正確な年齢の把握ができません。また、パソコンをお持ちでない方もいらっしゃいますので、今回は郵送で行わせていただきます。

(C委員)

インターネットカフェもあります。私は紙では出しません。回答率も良くなるのではないのでしょうか。

(事務局)

インターネットでは、ランダムにはいきませんので郵送で行わせていただきます。インターネットでの調査は別の問題で行っていきたいと考えていきます。

(I 委員)

送られてきた時に面倒くさい質問だと思いました。しかし、じっくりみれば良い質問だと感じました。

(事務局)

ありがとうございます。

(G 委員)

各設問で利用者について掛ける自由記載欄があれば違う部分も見られると思うので良いと思います。

(事務局)

検討します。

(A 委員)

インターネットの話がでましたが、インターネットを見る人数等は学校等で把握しているのでしょうか。

(D 委員)

調べたことはありませんが、学級閉鎖のお知らせについてブログに載せました。携帯電話でもアクセスできるのですが、利用率は高いと思います。

(A 委員)

100パーセントでしょうか。

(D 委員)

100パーセントではありません。

(A 委員)

何パーセントほどでしょうか。

(D 委員)

半分にも行かない状況です。

(G 委員)

特定の学年だけできるのでしょうか。

(D 委員)

その学級だけできるものです。去年から準備を始めて今年から始めたばかりなので、広く周知できていない状況です。

(B 委員)

まだ難しい状況ですね。

(C 委員)

主婦は、時間のあるときにホームページを開けられるから便利だと。

(B 委員)

鎌ヶ谷のホームページを開けるとは限らないと思います。自分の興味のある分野しか開けない人が多くいると思います。

(E 委員)

郵送で送られて来る方が、回答率が上がると思います。

(B委員)

鎌ケ谷市役所と書いてある封筒を開けることは安心できますし、活字の力もあるかと思えます。

(H委員)

20年程ボランティアで保育を行ってきましたが、最初の頃から比べるとたくさんの子育て支援が鎌ケ谷に出来ていることを嬉しく思っています。なので、今回のアンケートを送られた方が協力して回答してくださるようお願いしております。

(B委員)

たくさんの子育て支援を行っているということをアピールしていかないと損なってしまうと思います。せっかくの調査の機会であるので、もう一工夫アピールしていただければ一生懸命やっている皆様も報われるのではないのでしょうか。

(A委員)

個票のデータが1ページ目にきますが、そうではなくて、アピールしたいことを1ページ目に持ってきてはいかがでしょうか。個票が1ページ目にくると個人情報調べているのかというイメージとなり嫌になるのではないのでしょうか。1ページ目はワクワクさせるような1ページ目にして、最後に統計調査ということで個票にするような表現にすれば良いかと思えます。

(事務局)

ありがとうございます。提案のあった方法が出来ることであるか研究しながら、出来ることであれば実行していきたいと思えます。

(H委員)

今、出た意見は市側が努力していただく事だと思えますが、このような会に係っている人間も地域の中にいますので、何か機会があれば自分たちから進んで子育て支援について伝えていけるよう、皆さんも頑張ってくださいたいと思えます。

(I委員)

主任児童委員の立場から申し上げますと、いろいろな他市との会議がたくさんある中、鎌ケ谷市の現状は恵まれています。江戸川区には負けますが、子育て支援もたくさんあり、市の対応が大きな市に比べて細かく行き届いている気がします。

(C委員)

鎌ケ谷市にもできることはあると思えます。いつも思うのは、国にやりなさいと押し付けられて鎌ケ谷市の個性が無い気がします。

(I委員)

活動している私達からすると鎌ケ谷市独自のものはたくさんあります。上からではなく鎌ケ谷市が独自で立ち上げたこともたくさんあり、他市と比べれば恵まれていると大変感じています。他市は主任児童委員自ら子育て支援事業を立ち上げて行っているところもありますが、鎌ケ谷市は自ら立ち上げて主任児童委員を参加させてくれています。他市のいろいろな場に出るとありがたさがわかります。

(会長)

様々な意見が出たので、出来ることがあれば参考にしてアンケートを作成してください。

(事務局)

ありがとうございました。ご意見はアンケートの中に出来るだけ盛り込ませていただいて良いアンケート結果となるよう努めてまいります。

6 閉 会 中井会長

以上で会議は終了した。

会議録署名人署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証明するため、次に署名する。

平成21年 7月 8日

氏 名 松 村 幸 江 _____

氏 名 山 田 ル ミ 子 _____